

都立大学駅前

桜並木照明計画

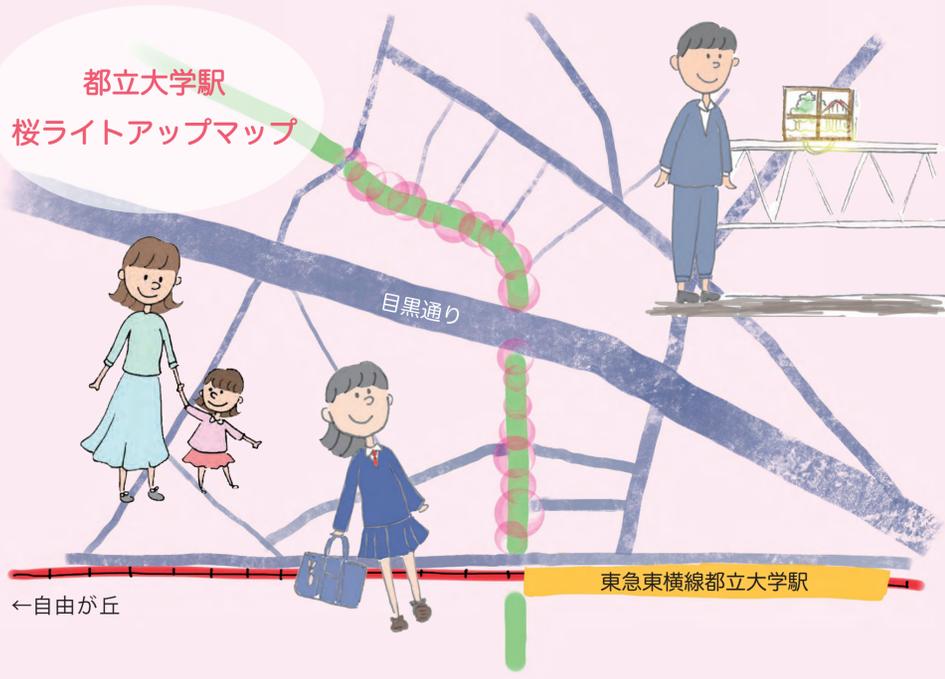
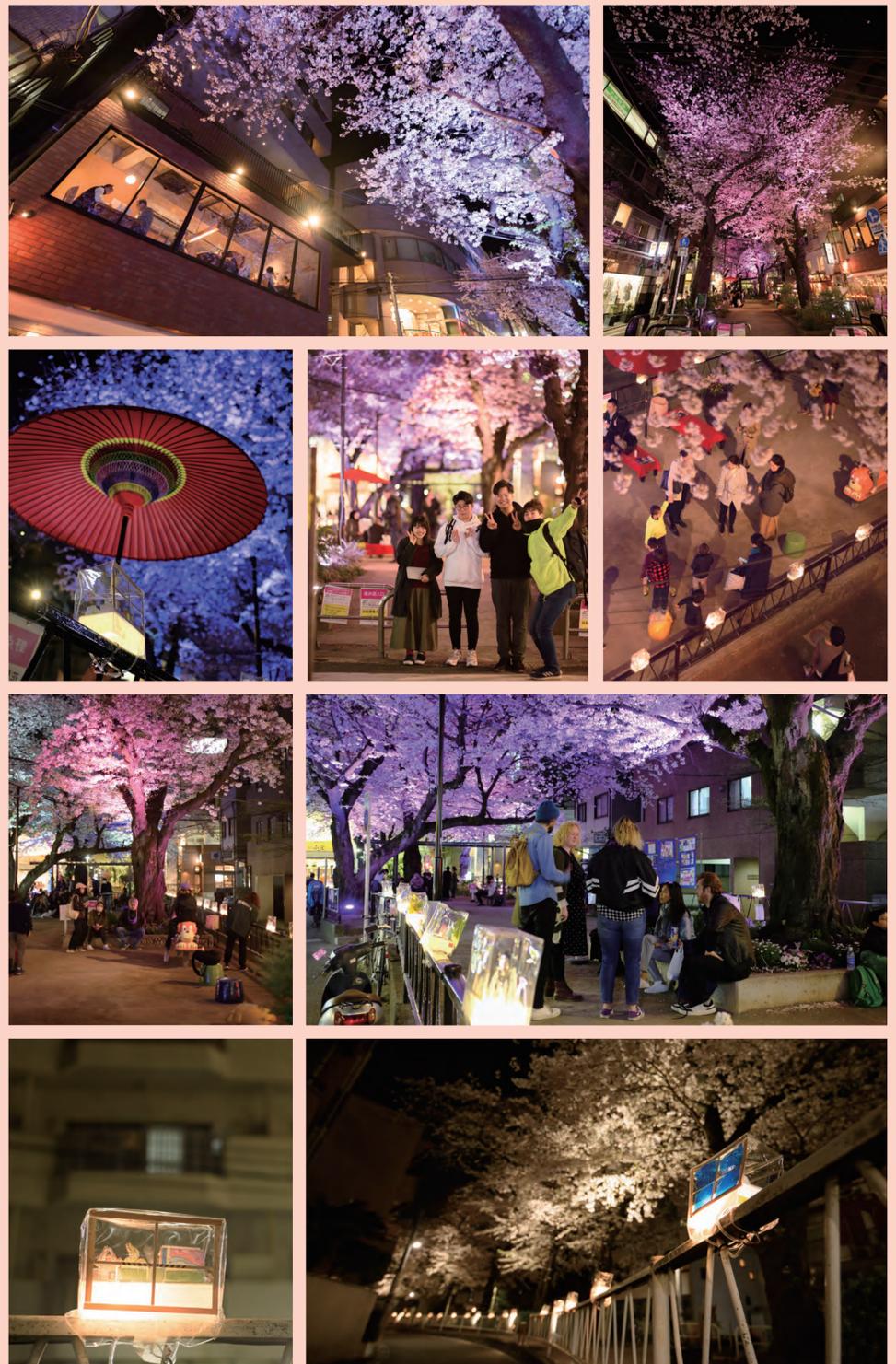


東京都市大学小林研究室
都立大学駅前商店街・富志美会との連携（東京観光財団助成事業）

東急東横線都立大学駅前の呑川本流緑道で桜並木ライトアップを行なった。

呑川は世田谷区、目黒区、大田区にまたがる約14.4kmの河川である。街の発展とともに排水で汚染されてしまい、1972年に暗渠化され、そして地上には約700本の桜が植えられた。人々に忘れ去られつつある呑川を思い出してもらうことを意図し、桜並木に川の揺らぎを表現するライトアップを行った。また、目黒区八雲小学校2、3年生の生徒が、「窓明り」をテーマに作品づくりをした。これらを、かつての川の境界に展示していった。

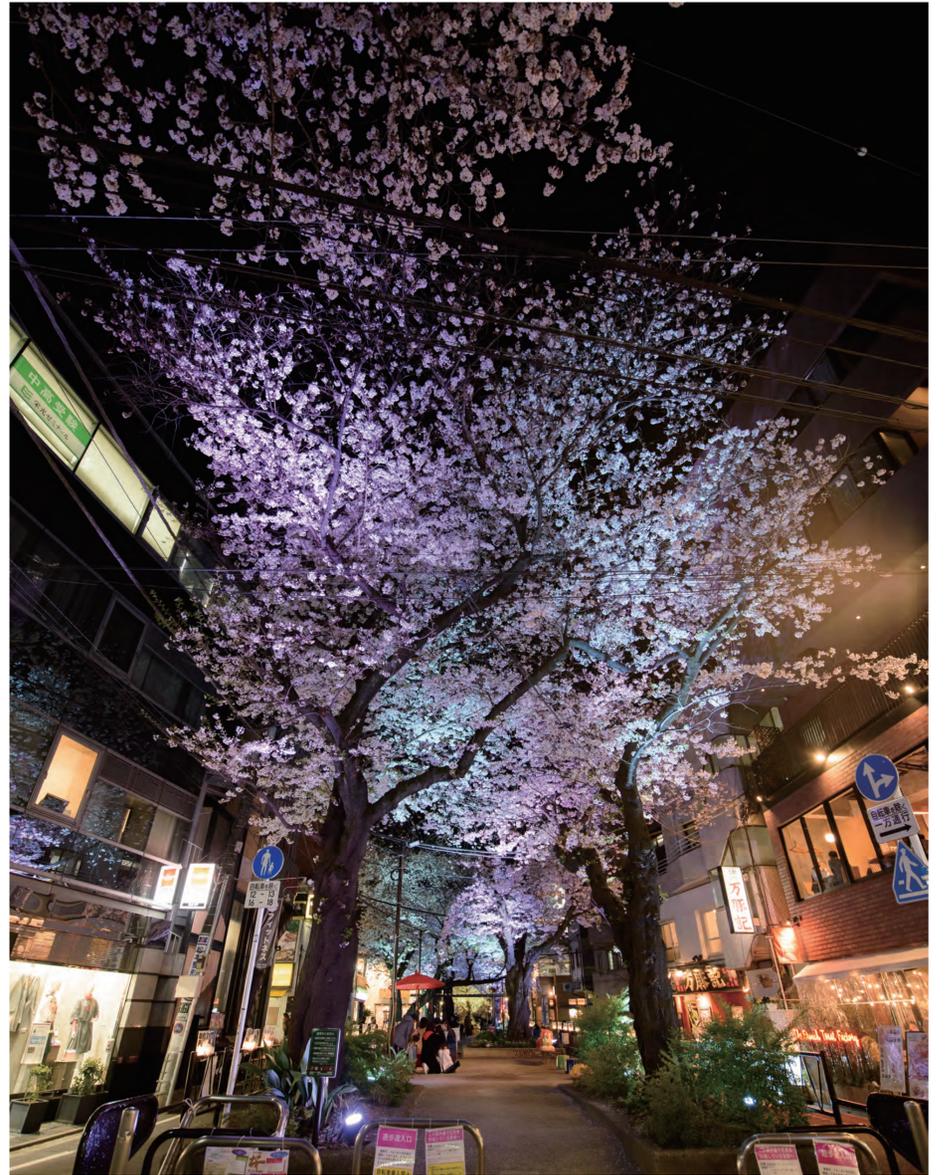
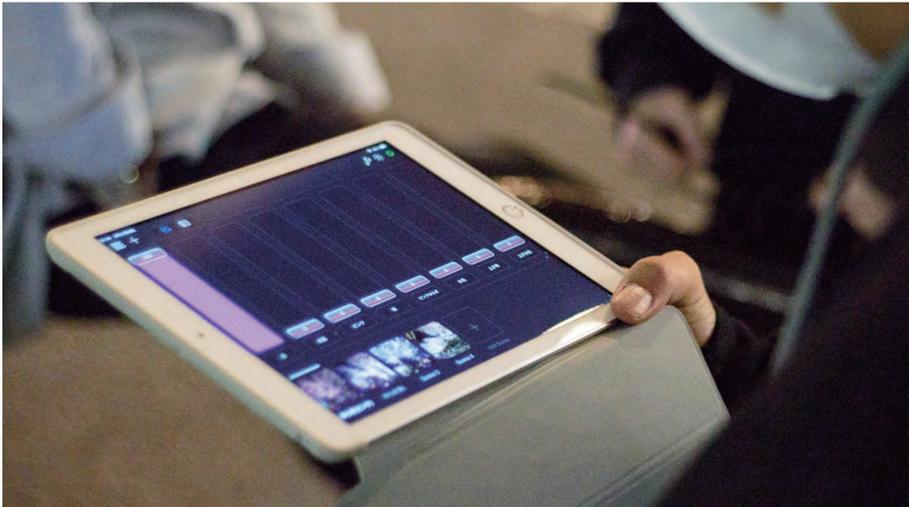
『桜』と『川』と『街』を繋げるライトアップは、この地域の地形と歴史を未来に感じさせるものとなった。



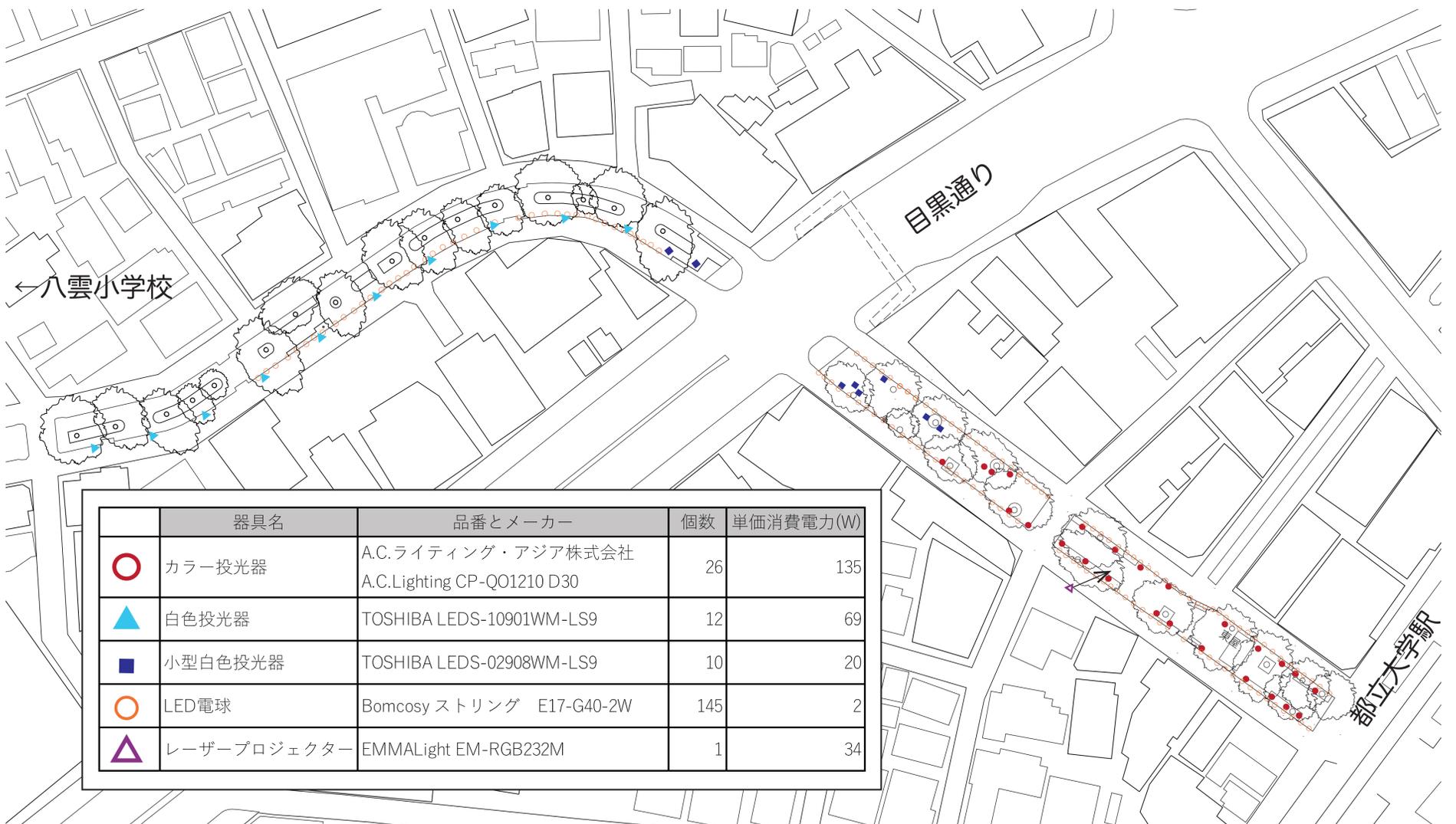
川を表現する 桜ライトアップ



タブレットを使い、光色を自由自在に変えられる参加型のライトアップを実施した。自分の好きな色や揺らぎ方で、桜を染めることができる。オリジナルの桜を楽しんでもらえるライトアップになった。



微かに揺れて輝く川のように、桜を照らし出している。ピンク、白、オレンジ、黄、緑、青、紫、赤を固定した色で投影するのではなく、微妙な濃淡や明暗をつけていった。そうした色が緩やかに流れるグラデーションとなることで、呑川があったことを暗示した。通り過ぎる人たちがふと立ち止まって桜を眺めたくなるように。

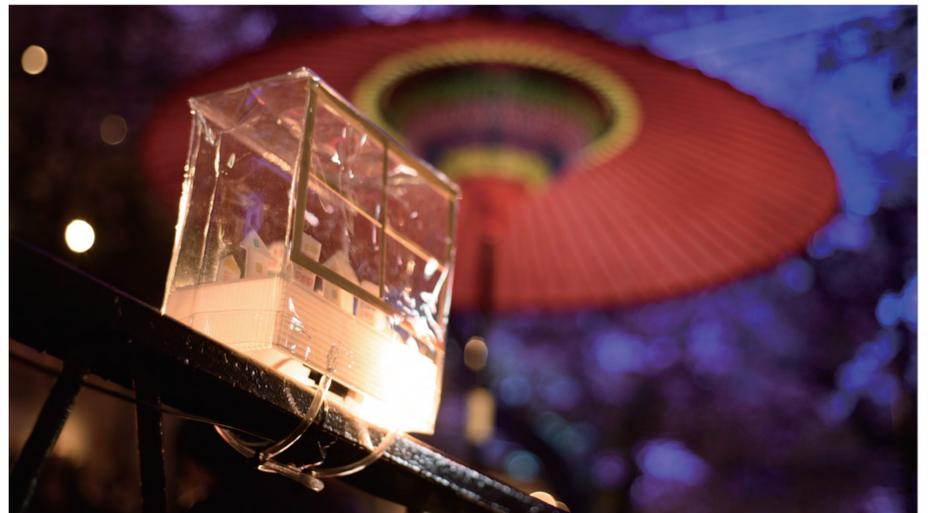


「とりつの窓」作品展示



八雲小学校2、3年生150人が、「窓明かり」をテーマに作品を制作した。

この街の好きな場所、未来の風景、空想的な姿など、一つずつ異なる作品でき上がった。150の小さな窓明かりが夜の街を表現し、川をイメージした桜の光の下に展示された。

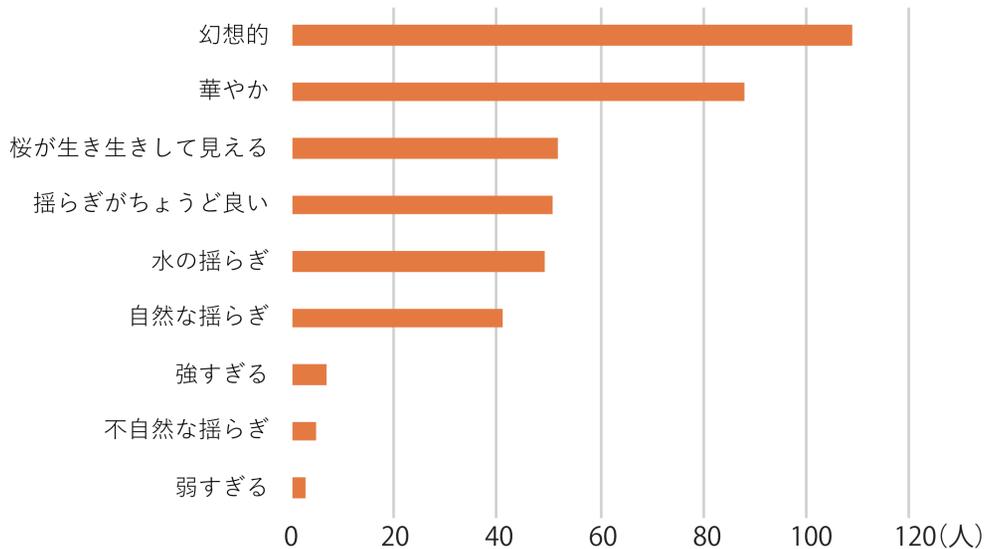


アンケート結果

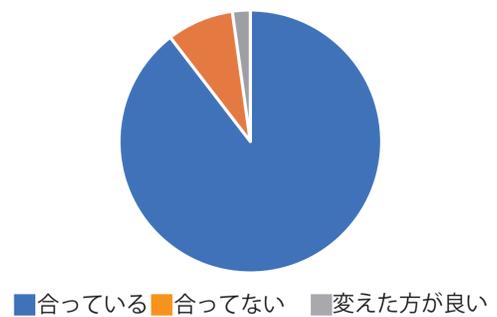


ライトアップ期間中約2万人の方が呑川緑道を訪れ、その中で216人を対象にアンケート調査を行った。

○光色変化で感じること



○「桜と街と川をつなぐ」というテーマについて



○「とりつの窓」について

